

研究・調査報告書

報告書番号	担当
46	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Serum gamma-glutamyl transferase, self-reported alcohol drinking, and the risk of stroke 血清γ-GTP、自己報告飲酒量と脳卒中のリスク	
執筆者	
Pekka Jousilahti, Daiva Rastenyte, Jaakko Toumilehto	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Stroke, 31(8); 1851-1855, 2000 Aug.	
キーワード	
Alcohol drinking, gamma-glutamyltransferase, stroke 飲酒、γ-GTP、脳卒中	
要旨	
<p>背景と目的 脳卒中と飲酒との関係に関する根拠は未だ錯綜している。多くの前向き研究で、飲酒に関する情報は対象者の自己報告に基づいている。この研究の目的は脳卒中と自己報告飲酒量、そしてγ-GTPの関連について検討することである。</p> <p>方法 前向き研究の対象者は25歳から64歳までのフィンランド人男女計14874人であり、1982年もしくは1987年に脳血管疾患の危険因子を明らかにする目的で行われた追跡研究に参加した者である。ベースライン調査項目のうちデータ解析に用いられた危険因子は、自己報告による飲酒実態、γ-GTP、喫煙、血圧、血清総コレステロール、BMIである。対象者は1994年末まで追跡された。脳卒中の発症は国の死亡登録および病院の退院記録から確認した。</p> <p>結果 血清γ-GTPは男女ともに全脳卒中および脳梗塞の発症と関連が認められた。また、男性ではγ-GTPと脳出血との間に有意な関連が認められ、女性ではくも膜下出血と有意な関連が認められた。これらの関連は、他の危険因子で補正しても有意な関連を示した。自己報告による飲酒実態はどの病型の脳卒中とも関連が認められなかった。</p> <p>結論 これらの結果は、大量飲酒が脳卒中の危険性を増大させるという仮説を支持するものであり、γ-GTPのような飲酒の生化学指標は飲酒に関連する危険因子を評価する上で有用である。</p>	